

2024.10.05

平成 16 年台風 23 号 20 年メモリアル「防災への思い」

基調講演

これまでの防災を振り返り、
これからの防災を考える
～平成 16 年台風 23 号を語り継ぐ～

東京大学大学院情報学環 特任教授

片田 敏 孝

■自然災害の激甚化と、容赦ない事態の展開

- ・令和6年(2024年)も災害の激甚化・極端化が顕著
 : 能登半島地震に始まり、大地震が頻発。
 : 夏からは度々 線状降水帯の発生や、
 台風や前線に伴う大雨によって全国各地で被害。

◎災害の本質：事態の進展がどうなるか分からない。

- ・令和6年能登半島地震に見舞われた石川県、その復旧復興の途上にあるなかで、9月には記録的な大雨で再び被災。
- ・令和6年台風10号、お盆休みに直撃した台風。

当初の予測進路の中心は、紀伊半島や伊勢湾方面への直撃だったが、実際の経路としては、九州(薩摩川内市付近)に上陸し、四国を抜け、再び太平洋へ戻り、伊勢湾付近で熱帯低気圧へと変わった。

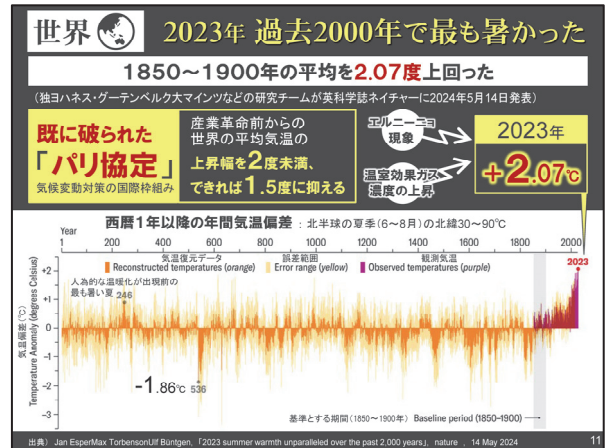


【平成16年台風23号】

- ・全国で死者・行方不明者98名、この豊岡市においては7名の尊い命が失われた。
- ・円山川や出石川では堤防が決壊し、豊岡市 全世帯の半数が浸水する事態に。

【激しさを増す一方の気象災害】

- ・**日本** 2024年7月の気温
 気象庁統計開始以降、最も高い
- ・**世界** 世界気象機関(WMO)や、世界各地の気象研究機関が地球全体の気温上昇を指摘
 : 地球の海面水温(S60°~N60°)の平均値
 2023年も異常だったが、
 2024年はそれをも超える異常な状況



【豪雨災害が多発しているのは何故か？】

→ 「高い海水温」が大きく影響している

ポイント① 一度に降る降水量の増加 ……大雨の年間発生回数、有意に増加

ポイント② 強力な勢力のまま接近・上陸する台風 ……令和元年東日本台風、令和4年台風14号等

ポイント③ 高い緯度で台風発生



Q 近年各地で豪雨災害が多発しているのは何故か？

A 日本近海の **高い海水温** が大きく影響している

ポイント

- ① 一度に降る降水量の **増加**
- ② 強力な勢力のまま **接近・上陸する台風**
- ③ **高い緯度** で台風発生

■日本の防災が大きく転換している～ 真に国民の主体性を求める防災へ～

【平成30年7月豪雨による水害・土砂災害からの避難に関するワーキンググループ】

- 住民主体の防災対策に方針転換
 - ・現 状：突発的に発生する激甚な災害への行政主導のハード対策・ソフト対策には限界がある。住民主体の防災対策に転換していく必要がある。
 - ・目指す社会：住民が『自らの命は自らが守る』意識を持って自らの判断で避難行動をとり、行政はそれを全力で支援するという、住民主体の取組強化による防災意識の高い社会を構築する必要がある。
- 問われる「自分の命を守る」ことへの主体的な“姿勢”
- 防災は、主体的な姿勢をもつ住民に対する「行政サービス」から「行政サポート」へ

【令和元年台風第19号等による災害からの避難に関するワーキンググループ】

- 災害対策基本法の一部改正にまで発展

①避難情報の変更：避難勧告・避難指示の一本化

避難勧告・指示を一本化し、従来の「避難勧告」の段階から「避難指示」を行うこととし、避難情報のあり方を包括的に見直し →本質的な狙いは『住民の主体的避難』

②避難行動要支援者のための個別避難計画の作成：市町村に作成を努力義務化

避難行動要支援者の円滑かつ迅速な避難を図る観点から、個別避難計画について、市町村に作成を努力義務化 →本質的な狙いは『ひとりも見逃さない避難支援』

■防災の真の実効性を探る…人は人として逃げられない

- ・近年、豊富で充実した防災が提供されているが…
 - － 科学的知見に基づく「豊富な情報」
 - － 最新の科学技術によって提供される「充実した情報」
 - － 避難しても困らないように「きっちり整備された避難路・避難所」
- } それらを伝えても
それでも避難が
行われてない現実
- ・利他的効用による「適切な避難」～家庭、コミュニティとの関係のなかで生じる「適切な避難」～
 - － 釜石市での津波防災教育 ～そのとき起こる事態を想起させる～
 - ・「君が一人で逃げられないようであれば、お母さんはきっと君を迎えに来る」「僕、逃げるモン」
 - ・子供たちの内発的な意識を作り上げるコミュニケーション
 - ：理路整然とした知識教示ではなく、『心を揺さぶる問いかけ』を通して姿勢の醸成へ導く
 - 他者との関わりの中で考える命の教育：『説得』ではなく、『納得』へと導く防災

◎日本の防災の向かうべき方向性：自助、共助、公助が一体となって、自然災害に立ち向かう社会の構築

平成30年7月豪雨を踏まえた水害・土砂災害からの避難のあり方について（報告）

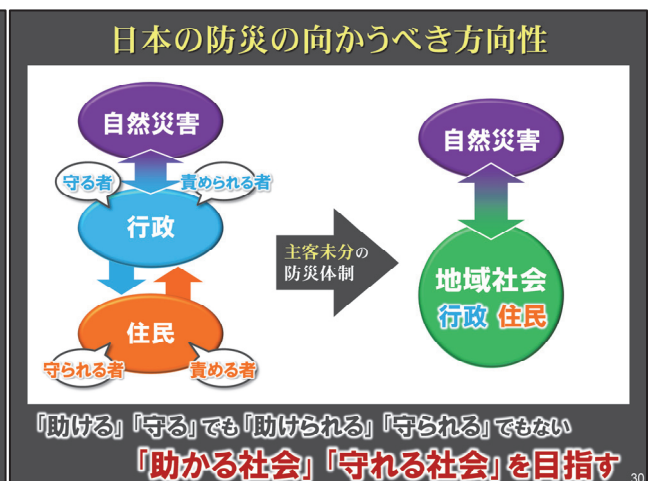
おわりに 国民の皆さんへ～大事な命が失われる前に～

- ・自然災害は、決して他人ごとではありません。
「あなた」や「あなたの家族」の命に関わる問題です。
- ・激化した気象現象は今後更に悪化するでしょう。
- ・行政が一人ひとりの状況に応じた避難情報を出すことは不可能です。
自然の脅威が間近に迫っているとき、
行政が一人ひとりを助けに行くことはできません。
- ・行政は万能ではありません。皆さんの命を行政に委ねないでください。
- ・避難するかは「あなた」が判断してください。
皆さんの命は皆さん自身で守ってください。

(中略)

- ・「あなた」一人ではありません。避難の呼びかけ、
一人では避難が難しい方の援助、地域の皆さんで助け合いましょう。

行政も、全力で、皆さんや地域をサポートします。



片田敏孝

昭和35年 岐阜県生まれ

東京大学大学院情報学環 特任教授

平成2年：豊橋技術科学大学大学院博士課程修了
平成2年：東海総合研究所 研究員
平成3年：岐阜大学工学部土木工学科 助手
平成5年：名古屋商科大学商学部 専任講師
平成7年：群馬大学工学部建設工学科 講師
平成9年：群馬大学工学部建設工学科 助教授
平成12年4月～平成13年9月：京都大学防災研究所 客員助教授
平成13年4月～平成14年3月：米国ワシントン大学 客員研究員
平成17年：群馬大学工学部建設工学科 教授
※平成26年：群馬大学大学院理工学府に所属名変更
平成22年：群馬大学広域首都圏防災研究センター センター長
平成29年：東京大学大学院情報学環 特任教授
群馬大学 名誉教授
令和元年10月～令和5年11月：日本災害情報学会 会長



■委員会・審議会等

- ・内閣府中央防災会議「災害時の避難に関する専門調査会」委員
 - ・文部科学省：「科学技術・学術審議会」専門委員
 - ・総務省消防庁「消防審議会」委員
 - ・国土交通省：「水害ハザードマップ検討委員会」委員長
 - ・気象庁：「気象業務の評価に関する懇談会」委員
- などを歴任

■受賞歴

平成12年度 日本自然災害学会学術賞、横山科学技術賞
平成14年度 国際自然災害学会賞、土木学会論文賞
平成19年度 文部科学大臣表彰科学技術賞
平成23年度 日本教育再興連盟賞、日本災害情報学会 廣井賞
平成24年度 内閣総理大臣表彰（防災功労者）、内閣総理大臣表彰（海洋立国推進功労者）、ヘルシー・ソサエティ賞
平成25年度 宮沢賢治賞・イーハトーブ文学賞
平成27年度 和歌山県知事表彰
令和5年度 兵庫県防災功労者知事表彰
令和6年度 国際総合防災学会 実践科学賞

■著書

- ・「人に寄り添う防災」 集英社新書
- ・「人が死なない防災」 集英社新書
- ・「ハザードマップで防災まちづくり ～命を守る防災への挑戦～」 東京法令出版
- ・「3.11釜石からの教訓 命を守る教育」 PHP研究所
- ・「子どもたちに『生き抜く力』を ～釜石の事例に学ぶ津波防災教育～」 フレーベル館
- ・「みんなを守るいのちの授業 ～大つなみと釜石の子どもたち～」 NHK出版

専門は災害情報学・災害社会工学。

災害への危機管理対応、災害情報伝達、防災教育、避難誘導策のあり方等について研究するとともに、地域での防災活動を全国各地で展開している。特に防災教育については、地域防災と連携した育みの環境ととらえた活動を展開している。また地域防災については、地域の災害文化として、災いをやり過ごす知恵や災害に立ち向かう主体的姿勢の地域での定着を図ってきた。これら一連の活動が認められ、平成24年には防災の功労者として内閣総理大臣表彰を受賞、さらに同年海洋立国日本の推進への功労者としても、内閣総理大臣表彰を受賞している。また平成26年には皇居に招かれ天皇后陛下にご進講もしている。

また、内閣府中央防災会議や中央教育審議会をはじめ、国・外郭団体・地方自治体の多数の委員会、審議会に携わり、研究成果を紹介しながら防災行政の推進にあたっている。主な学会活動として、日本災害情報学会、日本自然災害学会理事がある。